

～ 受動喫煙が子どもに与える害について ～

町内小中学校3校合同の、小中連携学校保健委員会が11月18日(金)に行われました。この会では学校・家庭・地域が連携し、児童生徒の健康課題の解決と健康づくりを推進するための協議をしています。今回は、「受動喫煙が子どもに与える害について」をテーマに話し合いました。講話と話し合った内容の一部を紹介します。ご家庭でも、子どもたちの健康の保持増進にご協力いただきたいと思います。

★穴中・丸岡学校医の講話《受動喫煙が及ぼす子どもへの影響》

【受動喫煙とは。。】

タバコを吸わない人が、自分の意志とは関係なく、タバコの煙を吸いこむこと。



イヤな臭いがするよ～。

【受動喫煙で起こる病気】

- ・目の痛み、目がしみる
- ・のどの痛み、咳
- ・心拍数の増加
- ・冷え性
- ・肺がん、副鼻腔がん
- ・気管支喘息
- ・糖尿病



【受動喫煙による母胎・新生児への影響】

- ・不妊
- ・流産、早産
- ・新生児の低体重化
- ・乳児の慢性ニコチン中毒
- ・乳幼児突然死症候群



●平成27年1月に、丸岡先生が実施された“保護者を対象”としたタバコに関する調査では、

喫煙を「やめたい、やめさせたいと考えている」、受動喫煙の認識のある家庭が約80%と多い。



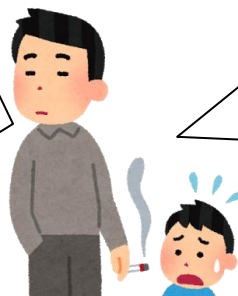
しかし、子どもの前での受動喫煙は男女を問わず、50%近くいる。

**穴水町は、他の市や町より
保護者の喫煙率が高い！**

祖父が喫煙している家庭での父親の喫煙率 82.3%である。



親が喫煙していると、8割の子どもが喫煙する可能性がある。



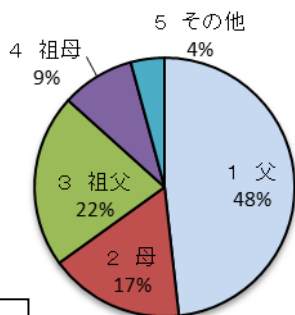
受動喫煙であってもニコチン依存症になることを知らない人が多い。



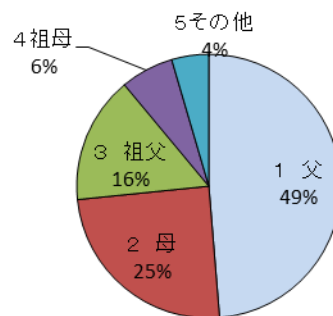
受動喫煙によるニコチン依存症となる家族が増える危険性が高い。

★9月末の小・中学校アンケートの結果より

《家族でタバコを吸う人》



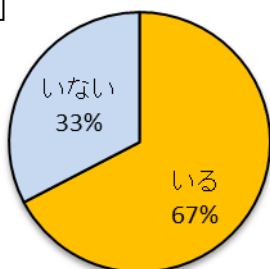
家族でタバコを吸っている人の割合は、60%を越えていた。内訳は、父親が約50%、母親が約20%である。これは小中ともほとんど同様の結果であった。



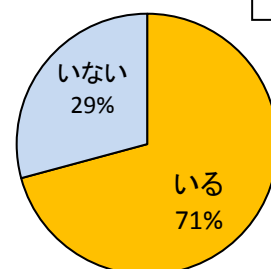
小学生

中学生

《あなた(子ども)のまえでタバコを吸う人》



自分の前で家族がタバコを吸っていると答えている子は小学生67%、中学生71%だった。喫煙者のいる家庭では、7割の子どもが受動喫煙の影響を受けていることがわかった。



穴水町では、2世帯に1世帯は喫煙者がいます。アンケートから、子どもに何かしらの害があると分かっているにもかかわらず、タバコを近くで吸ってしまう現状があることが分かりました。家庭環境によってはタバコが生活の一部になっており、禁煙に取り組むことは難しいことかもしれません。しかし、受動喫煙の子どもへの害は大きく、また将来子どもが喫煙者になるという、喫煙の連鎖を生む可能性は8割もあります。この機会に、是非ご家庭でタバコについて話し合ってみてください。また、丸岡先生のお話では、禁煙外来での治療では、タバコがなくなって辛いのは最初の2～3日だけだそうです。禁煙に失敗することも1～2割しかないそうなので、禁煙に向けて踏み出す一つの選択肢としてみるのもいいかもしれません。

保護者代表の方々から

協議の中で、保護者の代表の方から、「タバコの話聞いたから、親子で話をするとしないでは全然違ってくると思う」と意見をいただきました。

授業やお便りなどからタバコについての話が子どもからありましたら、保護者の皆様が積極的に聞いてあげてください。よろしくお願いします。

学校での取り組み

- ・薬物乱用防止教室の充実
- ・保健体育・学活・道徳に関連させて繰り返し指導する

一度の学びで終わらずに、繰り返し学びの場を提供していきたいと思います。

